



興味をもったことが、夢になり、大きな挑戦に

校長 吉井 宣明

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) が開発した小型探査機 SLIM (スリム) が日本で初めて月面着陸に成功しました。太陽電池パネルが太陽光を受ける向きに着陸できなかったという失敗はあったものの、世界で五か国目の快挙に大変感銘を受けております。今回は、狙った場所に世界で最も精度の高い誤差 100メートル以内の「ピンポイント着陸」に挑戦しました。また玩具メーカーと共同開発した小型ロボットも話題になりました。着陸直前に放出され球形から変形して探査機になり、SLIMの着陸場面を撮影しました。変形ロボットの技術が実際の宇宙で活躍するなんて、TVや映画のSFの世界が身近になってきていると感じます。

1966年旧ソ連の無人探査機「ルナ9号」が世界で初めて月面への軟着陸に成功して以来、60年近くが経とうとしています。人類初の有人での月面着陸を果たしたアメリカの「アポロ11号」に積んでいたコンピュータの性能は、その14年後の1983年に発売され大ヒットした家庭用カセット式ビデオゲーム機に使われているコンピュータより劣るそうです。また、今のスマートフォンは当時のスーパーコンピュータを上回る性能です。それだけ科学が進歩しても、月面に着陸するというのは、今でも難しいことのようにです。去年は、日本のベンチャー企業が世界で初めての民間による月面の軟着陸に挑みましたが、高度の見誤りで失敗したニュースもありました。

アメリカの発明家トーマス・エジソンは、「私は決して失敗したことはない。ただ、1万通りのうまくいかない方法を見つけただけだ」と語りました。何度も失敗しましたが失敗を恐れず、何度も挑戦しました。失敗を学びの機会と捉えることが、成長のカギなのですね。

世界はもちろん、日本の企業でも大きなビジネスチャンスとして商業宇宙旅行の成功に向けて日々、計画や実験を繰り返しています。日吉台小学校の子どもたちが大人になる10年後20年後には、一般の人も宇宙旅行を楽しんでいるかもしれません。また月や火星への有人ミッションが本格化し、探査と同時に人類が他の惑星に滞在する基地が設立しているかもしれません。国際宇宙ステーション (ISS) の後継となる新しい宇宙ステーションの設置がされているかもしれません。AIに代替される職業がある一方、そうやって宇宙を舞台に活躍する新しい仕事も生み出されていくのです。

さて世界で大活躍をしている日本人と言えば大谷翔平選手がいます。かねてより大谷選手から全国の小学校にグローブがプレゼントされるということで話題でしたが、ついに日吉台小学校にも大谷選手のグローブが届きました。右利き用2つと左利き用が1つです。



サイズは小学生用になっています。「子どもたちが野球に興味を持ってもらうため」、「野球を楽しんでもらうため」、「このグローブが、次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルに」という、大谷選手からのメッセージが添えられていました。まずは全員が見たり触ったりできるよう全クラスを回覧しています。

